

(別添)

唐津赤十字病院 公的医療機関等2025プラン

平成29年 9月 策定

【唐津赤十字病院の基本情報】

医療機関名：唐津赤十字病院

開設主体：日本赤十字社

所在地：佐賀県唐津市和多田2430

許可病床数：304床

（病床の種別）一般病床300床、感染症病床4床

（病床機能別）高度急性期16床、急性期288床

稼働病床数：304床

（病床の種別）一般病床300床、感染症病床4床

（病床機能別）高度急性期16床、急性期288床

診療科目：内科、神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、血液内科、糖尿病内科、腎臓内科、腫瘍内科、小児科、外科、消化器外科、乳腺外科、呼吸器外科、整形外科、脳神経外科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、精神科、救急科、病理診断科、形成外科
（計 28科）

職員数：

・ 医師	常勤職員数	72	常勤換算数	74.5
・ 看護職員	常勤職員数	330	常勤換算数	334.4
・ 専門職	常勤職員数	92	常勤換算数	92.2
・ 事務職員	常勤職員数	101	常勤換算数	101.0

【 1 . 現状と課題】

構想区域の現状

国立社会保障・人口問題研究所の人口推計によると、佐賀県北部医療圏の総人口・生産年齢人口（15～64歳）は、減少していく見込みであるが、65歳以上人口については、2025年をピークに減少し、75歳以上人口については、2035年がピークとなる。また、特に医療需要が高い75歳人口の総人口に占める構成比は、増加してゆく。

これらの人口構成から医療需要としては、2025年以降も一定期間伸びてゆくことが予測されている。

また、構想区域内の患者の受療動向については、患者住所地ベースの流出率、医療機関所在地ベースの流入率調べによると、域内完結率がそれぞれ93.3%、95.0%と県内でも一番高く圏域としての完結性が見られる。

北部医療圏の将来推計人口

年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
総数	128,137	122,899	117,309	111,612	105,836	99,832
15～64歳	72,952	67,224	62,831	59,352	56,222	51,978
65歳以上	37,405	39,651	39,943	38,924	37,064	35,951
うち75歳以上	20,023	20,249	22,430	24,102	24,174	22,964

（資料：国立社会保障・人口問題研究所）

患者住所地ベースの流出率

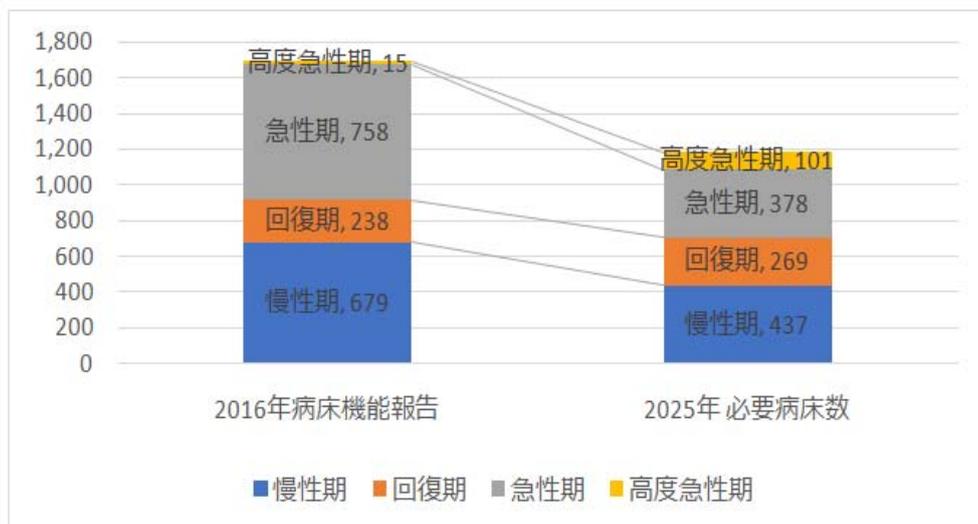
			医療機関所在地											
			佐賀県					他都道府県						
			中部	東部	北部	西部	南部	福岡・糸島	筑紫	久留米	有明	北九州	佐世保 県北	県央
患者 住所 地	佐 賀 県	中部	92.6	1.9	0.3	0.0	1.9	0.7	0.0	2.2	0.2	0.1	0.0	0.0
		東部	4.4	75.2	0.0	0.0	0.0	1.4	1.4	17.1	0.5	0.0	0.0	0.0
		北部	3.0	0.4	93.3	0.0	0.8	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		西部	2.8	0.0	2.6	78.6	11.4	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	3.2	0.7
		南部	7.5	0.6	0.0	1.1	88.8	0.5	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	1.2

医療機関所在地ベースの流入率

			医療機関所在地				
			佐賀県				
			中部	東部	北部	西部	南部
患者住所地	佐賀県	中部	89.0	4.6	0.7	0.0	3.4
		東部	1.5	63.0	0.0	0.0	0.0
		北部	1.2	0.4	95.0	0.0	0.6
		西部	0.7	0.0	1.7	88.3	5.3
		南部	4.0	0.8	0.0	2.5	87.6
	他都道府県	(東京)区中央部	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
		福岡・糸島	0.4	1.6	1.3	0.0	0.0
		筑紫	0.2	4.4	0.0	0.0	0.0
		朝倉	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0
		久留米	1.4	22.2	0.0	0.0	0.0
		八女・筑後	0.2	1.2	0.0	0.0	0.0
		有明	0.6	0.7	0.0	0.0	0.0
		北九州	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0
		佐世保県北	0.3	0.0	1.3	9.2	0.9
		県央	0.1	0.0	0.0	0.0	2.2

(資料：佐賀県地域医療構想)

2025年の必要病床数と2016年(平成28年)の病床機能報告との比較については、高度急性期病床が不足し、急性期病床および慢性期病床が過剰の状態である。



< 北部医療圏必要病床数 >

主要疾患の医療需要として、がん入院患者は県全体で2025年に1割程度増加しピークとなる見込みである。

脳卒中については、2025年に2割程度の入院患者の増加が見込まれ、2030年まで増加していき減少局面に入ると見込まれる。

急性心筋梗塞・狭心症・心不全を合計した需要の伸びについては、2025年に2割程度の入院患者の増加が見込まれ、2035年まで続き、2040年以降減少に入ると見込まれる。

構想区域の課題

北部医療圏もまさしく佐賀県全体の課題と同様に、2025年の医療需要・必要病床数と現在の病床構成には大きな乖離がある。

このため、病床機能報告等に基づく病床機能の基準や、医療需要が今後も変わることに留意しながら、医療機関の自主的な判断による急性期病床から回復期病床への転換、療養病床の介護保険施設やその他の施設への転換などを進めることにより、医療需要の変化に対応した病床機能の確保を図る必要がある。また、機能ごと、疾患ごとの拠点病院の専門性の維持・向上を図る必要がある。

参考として、2030年の医療需要を推計したところ、2025年から2030年にかけても医療需要は伸びていくことが見込まれる。2025年に団塊の世代が全員75歳以上になるが、75歳以上の人口はその後増え続け、2035年がピークとなることが、医療需要が一定期間伸び続ける要因である。

医療需要に応じた効率的かつ質の高い医療提供体制を構築するためには、2025年だけではなく、その後の医療需要についても、見据えた取組が重要である。

自施設の現状

- ・ 基本理念 安心な医療 あたたかい看護 地域への貢献
- ・ 基本方針
 - 患者さんの人権を尊重します。
 - 質の高い医療と看護を提供します。
 - 救急医療やがん医療の充実に努めます。
 - 地域医療連携を推進します。
 - 災害救護に貢献します。
 - 健全で安定した経営基盤を確立します。
- ・ 新病院移転について

唐津赤十字病院は、平成28年8月に佐賀県、唐津市及び玄海町のご尽力により唐津市和多田地区への移転新築事業を完了したところである。

当院はこれまで北部保健医療圏の中核病院として、佐賀県の医療計画および赤十字の基本原則に基づき、唐津市及び玄海町の医療需要や災害救護活動に対し、責務を果たしてきた。

今回の病院移転新築の経緯としては、旧病院本館は建設されて以来、約30年近く経過し、設備の老朽化が顕著になっており、診療機能面においても、施設の規格が古く狭小であり、必要とされる施設の整備や、十分なプライバシーの確保ができず、期待された業務効率をあげることが難しくなっていた。さらに、災害時における災害拠点病院としての機能強化のためにも、施設整備の充実が求められているところであった。こうした背景の中、佐賀県における地域医療再生計画として、北部医療圏の計画が策定され、同計画において、「地域医療センターエリア」整備として、唐津赤十字病院の移転新築による新病院整備とともに、県・市の医療施設整備が挙げられることとなった。
- ・ 新病院の整備方針について

新病院の整備にあたっては、地域の医療需要、供給体制に応じ、また地域医療再生計画に基づいた「地域医療センターエリア」の核となる地域医療支援病院として、原則紹介型病院として施設整備を行った。また、4疾病5事業を主として小児救急・周産期医療体制の

構築及び強化、「地域救命救急センター」、「地域災害医療センター」としての機能の充実、さらに離島診療支援の充実を図った。

・医療機能について

医療機能としては、旧病院から引き続き考え方は同様で、保健医療計画における位置づけのもと、4疾病5事業を中心に以下のとおり取り組んでいる。

- (ア)『がん』の医療機能は、「がんの治療体制・地域がん診療連携拠点病院」の機能を担う。
- (イ)『脳卒中』の医療機能は、「超急性期、急性期医療機関」の機能を担う。
- (ウ)『急性心筋梗塞』の医療機能は、「超急性期、急性期医療機関」の機能を担う。救命センターの中に、CCU(冠疾患集中治療室)機能を整備した。
- (エ)『糖尿病』の医療機能は、「糖尿病専門の医療機能、透析を行う医療機能、血管病変対応の医療機能、眼科医療機能」を担う。
- (オ)『救急医療』の医療機能は、「入院救急医療」の機能を担い、救命救急センターとして、必要な病床を設ける。
- (カ)『災害医療』の機能は、「地域災害医療センター」の機能を担う。また、被ばく医療体制においては、「二次被ばく医療機関」に位置付けられており、今後も引き続き、この機能を担う。
- (キ)『へき地医療』の機能は、「へき地診療の支援」の機能を担う。
- (ク)『周産期医療』の医療機能は、「地域周産期医療」の機能充実を図る。
- (ケ)『小児救急を含む小児医療』の機能は、「地域小児医療センター(入院小児救急医療・救急型)」の機能を担い、機能充実を図る。

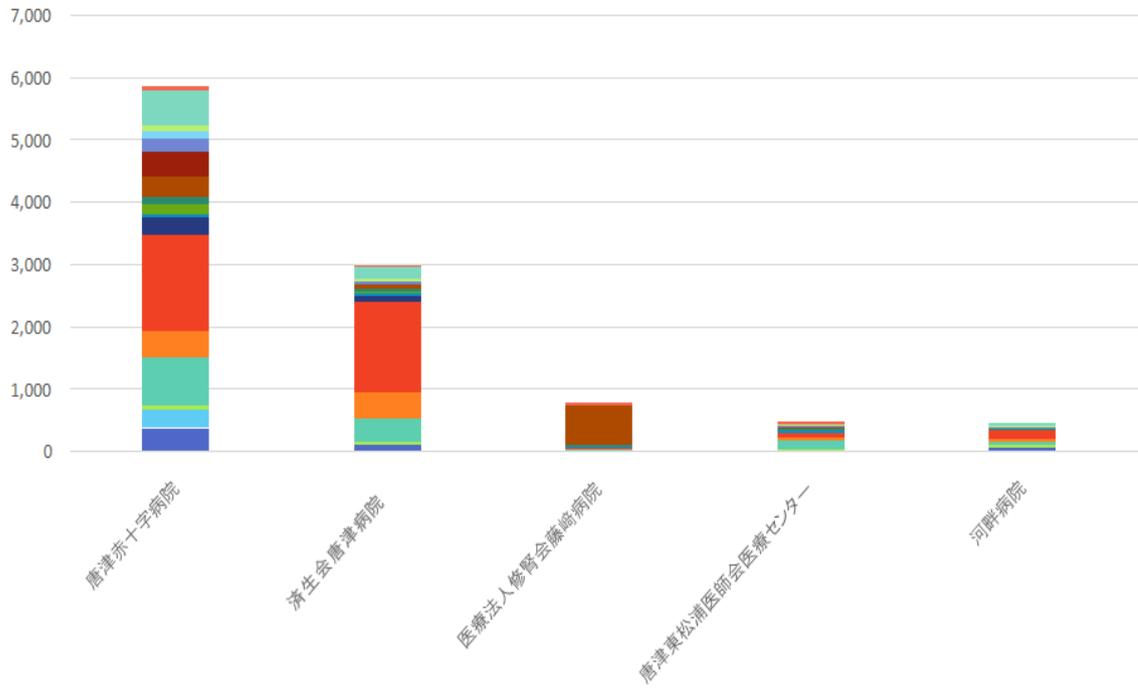
・ヘリポートの設置について

ヘリポートを病院屋上に設置することにより、事故・災害現場や離島からの重症患者の直接搬送を可能にする。また、基幹病院として他基幹病院との患者の救急搬送が容易になるなど活用が期待される。

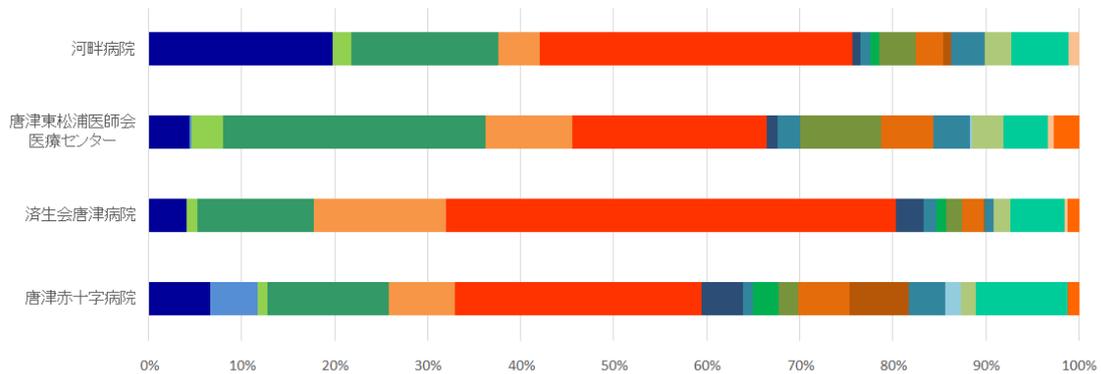
・主な指定・施設基準について

- ・地域医療支援病院・地域救命救急センター・地域がん診療連携拠点病院
- ・地域災害拠点病院・二次被ばく医療機関・臨床研修病院(基幹型,協力型)
- ・第二種感染症指定医療機関・7対1入院基本料・総合入院体制加算3
- ・救命救急入院料3・小児入院医療管理料4 など

佐賀・北部（MDC別退院患者数 2016年度）



2015年度MDC別退院患者比率



- | | |
|---------------------|---------------------------|
| 1 神経系疾患 | 10 内分泌・栄養・代謝に関する疾患 |
| 2 眼科系疾患 | 11 腎・尿路系疾患及び男性生殖器系疾患 |
| 3 耳鼻咽喉科系疾患 | 12 女性生殖器系疾患及び産褥期疾患・異常妊娠分娩 |
| 4 呼吸器系疾患 | 13 血液・造血器・免疫臓器の疾患 |
| 5 循環器系疾患 | 14 新生児疾患、先天性奇形 |
| 6 消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患 | 15 小児疾患 |
| 7 筋骨格系疾患 | 16 外傷・熱傷・中毒 |
| 8 皮膚・皮下組織の疾患 | 17 精神疾患 |
| 9 乳房の疾患 | 18 その他 |

< 資料：厚生労働省DPC評価分科会 >

< 医療機能別の医療圏での唐津赤十字病院の役割 >

医療機能	北部	西部	中部	東部	南部
救命救急センター	唐津赤十字病院		好生館 佐大病院		NHO嬉野
がん診療連携拠点病院	唐津赤十字病院		好生館 佐大病院		NHO嬉野
災害医療センター	唐津赤十字病院	伊万里有 田共立	好生館 佐大病院・多久市立	鹿毛病院	白石共立
緊急被ばく医療機関	唐津赤十字病院				
へき地医療の支援	唐津赤十字病院		好生館 佐大病院		
周産期医療	唐津赤十字病院		NHO佐賀病院 好生館 佐大病院・佐賀中部		NHO嬉野
小児医療	唐津赤十字病院		好生館・佐大病院 NHO佐賀病院		NHO嬉野
地域医療支援病院	唐津赤十字病院		好生館		NHO嬉野
第二種感染症指定病院	唐津赤十字病院	伊万里有 田共立	好生館 佐大病院	NHO東佐 賀	NHO嬉野

自施設の課題

- ・ 医師確保について
新病院開院の昨年8月より、近年待望であった常勤の麻酔科医を1名増員し、4名体制とすることができた。しかしながら、産婦人科医師については、3名体制を維持しているものの、ハイリスク分娩のみならず正常分娩を地域で安心して行えるような周産期医療を確立するためには産婦人科医師の増員は不可欠であり、医師確保に向けて唐津市、医師会と協力しながら継続的に大学等関係機関に働きかけを行なっている。
- ・ PFM(Patient Flow Management)の確立について
PFMとは、患者総合支援センターを中心とした紹介・逆紹介の調整管理、ベッドコントロール、入院時からの退院調整等を一元管理していくことであるが、当院においてもいわゆる出口問題は、大きな課題であり、今後も医療機関のみならず地域との情報共有、地域との連携機能である「佐賀県北部保健医療圏域退院支援ルール」に積極的に取り組んでいく必要がある。
- ・ 地域包括ケアシステムにおける急性期病院の役割
地域包括ケアシステムの中心的な担い手となる市町の取り組みを支援するためにも、自院の人材育成にとどまらず、地域住民、地域の医療者並びに介護事業関係者への啓発活動および地域医療構想に「指標」として挙げられている「看取り」に関する研修会等を計画していく必要がある。

【2. 今後の方針】 1. ～ を踏まえた、具体的な方針について記載

「はじめに」

当院においては、昨年8月の移転にあたって、前述のとおり医療圏の医療ニーズを踏まえ、また保健医療計画における位置づけのもと、行政及び関係機関の支援を受けながら事業を完遂した経緯から今後の方針については、下記に記載することに基づき、ソフト面の充実を中心に展開していく予定である。

地域において今後担うべき役割

- ・今までどおり地域救命救急センターを核とした救急医療を中心に、地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院として、また原則紹介型病院として高度急性期、急性期医療を展開し地域医療、地域完結型医療に貢献していく。

【平成28年度実績】

くも膜下出血	クリッピング術	3件
〃	血管内手術	11件
脳梗塞	tPA件数	33件
急性心筋梗塞	PCI件数	35件
その他のPCI件数		71件
がん手術件数		402件
全身麻酔件数		1,212件
外来化学療法件数		2,190件
入院化学療法件数		1,850件
外来放射線治療件数		253件/月
入院放射線治療件数		60件/月

(放射線治療は平成28年8月～12月まで移転に伴い休止)

今後持つべき病床機能

- ・平成28年の病床機能報告においては、当時の「4機能の定義」より地域救命救急センターのみとして、高度急性期機能を15床（新病院からは16床で稼働）と提出していた。しかし、佐賀県北部医療圏の中核病院としての高度急性期機能の現状及び地域の高度急性期機能提供体制の状況を踏まえ、今後1病棟42床を追加し、合計58床を高度急性期病床として報告することとする。
- ・対象疾患については、がん、脳卒中及び心血管疾患を基軸に、今後の患者推移や病棟における診療科の組み換え等を考慮しながら整備を図る。

その他見直すべき点

- ・医療圏における必要高度急性期病床は、まだ不足の状態ではあるが、今後は平均在院日数の短縮についても急務に取り組み、病病・病診連携及び地域における機能分担を踏まえ、地域のニーズに対応しながら紹介・逆紹介の推進を図り、病床利用のさらなる効率化に努める。

【3. 具体的な計画】 2. ～ を踏まえた具体的な計画について記載

4 機能ごとの病床のあり方について

< 今後の方針 >

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	15		58
急性期	286		246
回復期			
慢性期			
(合計)	301		304

< 年次スケジュール >

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度	合意形成に向けた協議	自施設の今後の病床のあり方を決定(本プラン策定)	
2018年度	地域医療構想調整会議における合意形成に向け検討	地域医療構想調整会議において自施設の病床のあり方に関する合意を得る	
2019～2020年度	医療需要に応じた病棟編成		
2021～2023年度			

診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

< 今後の方針 >

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持			
新設			歯科口腔外科
廃止			
変更・統合			

・ 構想区域内に提供施設がないため、歯科口腔外科を新設

その他の数値目標について

<u>医療提供に関する項目</u>	
・ 病床稼働率：	90%
・ 紹介率：	85%
・ 逆紹介率：	70%
<u>経営に関する項目*</u>	
・ 人件費率：	50%
・ 医業収益に占める人材育成にかかる費用（職員研修費等）の割合：	0.5%

* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

【４．その他】

(自由記載)

・これまで唐津救急医療センターで行われていた夜間・休日等の小児救急医療を平成29年4月1日より唐津市、玄海町、唐津東松浦医師会と連携し「地域連携小児救急センター」として当院内にて開設した。また、小児科においては、圏域内唯一の病床を有する医療機関である。

・当院では、赤十字の使命に基づき、また地域災害拠点病院として、救護班を3班、DMATチームを2班、二次被ばく医療救護班を2班、原子力災害医療派遣チームを1班編成し災害時医療に備えている。また、救護活動における自治体主催の各種訓練並びに日赤佐賀県支部との合同による救護訓練等を毎年定期的実施している。

・看護師の養成・教育に関しては、全国の赤十字医療施設に共通したキャリア開発ラダーシステムを導入して均一的な教育を行っており、レベルまでに救急法、災害看護、心のケア研修を組み込み救護員の養成を行っている。

また、新人口座研修を3ヶ月間行い、新人看護師の職場適応を促進し離職が少なくなっている。

<ラダー取得者> レベル65名、 レベル106名、 レベル47名

・日本看護協会認定の認定看護管理者3名、認定看護師 9分野12名などが在籍している。